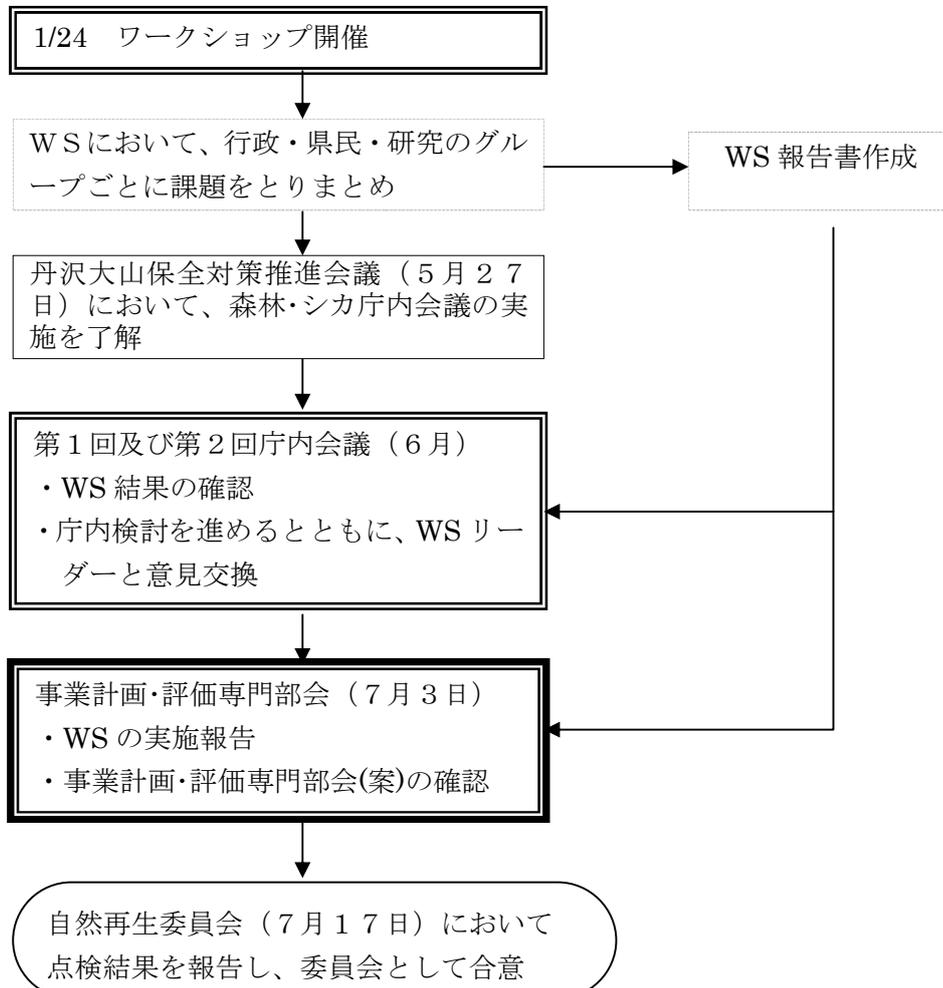


## 「森林管理とシカ管理における施策・事業の点検結果」について

- 平成20年6月の第6回再生委員会において、委員会による事業点検評価の取組として森林とシカをテーマとするワークショップの開催を承認した。
- 平成20年7月の第7回事業計画・評価専門部会において、森林とシカに関しては、「丹沢大山自然再生計画」の主要な課題であり、多くの関係者・幅広い検討事項を持つために、通常の専門部会による評価に加え、外部参加者を得た参加型のワークショップを開催すべきとされた。
- 本年1月に、「森林管理・シカ管理ワークショップ」を開催し、検討課題として、「行政、県民、研究」の課題グループ分けをし、今後検討すべき課題を整理した。
- このワークショップ結果を受けて、本年6月に、「森林・シカに関する庁内会議」を2回開催し、本ワークショップの課題グループリーダーとしてとりまとめを行った事業評価部会委員4名の参加を得て、「施策・事業の点検結果」に至る議論を進めた。
- 7月3日の第8回事業計画・評価専門部会において、「事業計画・評価専門部会(案)」として意見調整がなされた。
- 7月17日の第7回再生委員会で、事業計画・評価専門部会から「森林管理とシカ管理における施策・事業点検結果(案)」について報告があり、別紙のとおり再生委員会の点検結果として合意した(別紙1)。

(これまでの経緯)



(別紙1)

## 森林管理とシカ管理における施策・事業の点検結果

山地域（人工林・二次林域）の再生目標である「生きものも水・土も健全でなりわいも成り立つ森林」を実現するためには、将来にわたって森林整備とシカ管理のバランスを適切にコントロールしていく必要がある。

特に、水源地域におけるシカと森林施業については、より一体的な取組が必要である。例えば、水源林整備の実効性を高めるためには、下層植生の生長を阻害するシカによる過度の採食を防ぐことが不可欠であり、平成19年度よりかながわ水源環境保全・再生施策の特別対策事業として、県が進めている水源林整備に併せた、事前事後のシカ及び植生のモニタリングと予防的または集中的なシカの捕獲が必要である。

このような、シカ・森林の一体的な取組を進めていくためには、より具体的な議論を積み上げていく場が重要であり、水源林整備やシカ管理にかかわる既存の検討組織の連携・強化も検討が必要である。

また、野生動物保護管理に関する専門的な技術と知識を有する人材を育成・確保するとともに、効果的な事業の推進のために、捕獲やモニタリングなどの実行の担い手の育成と確保を図っていく必要がある。

「森林管理とシカ管理における施策・事業の点検結果」の説明

1 森林とシカの一体的な取組の必要性

(1) 水源林整備について

- ・ 水源林整備は着実に進捗しているが、一方で、期待通りに下層植生が回復していない現場が見られる。
- ・ 整備時にモニタリングのために設置した植生保護柵の内側では、林床植生が顕著に回復している一方、柵外はシカの採食を受けて乏しい状態となっている箇所があることがわかった。

水源林整備モニタリング実施結果

H13-協-15⑤ 相模原市津久井町青根 アカマツ林

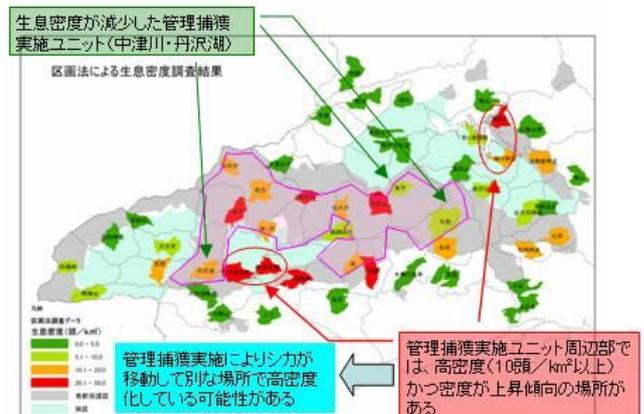


	柵内は植生が繁茂している	柵外は植生が乏しい
処理	柵内	柵外
林床植生景観	繁茂	乏しい
同現存量(DMg/m <sup>2</sup> )	143.5	22.8
土壌流出	なし	移動

(2) シカ保護管理について

- ・ H19年度から管理捕獲を通年で実施する等対策を強化し、毎年約1500頭のシカを捕獲している。
- ・ 生息密度調査の結果から、植生回復のための管理捕獲を実施した区域では、生息密度が低下したが、管理捕獲実施ユニットの周辺部では、高密度かつ密度が上昇傾向の場所がある。

管理捕獲によるニホンジカ生息状況の変化



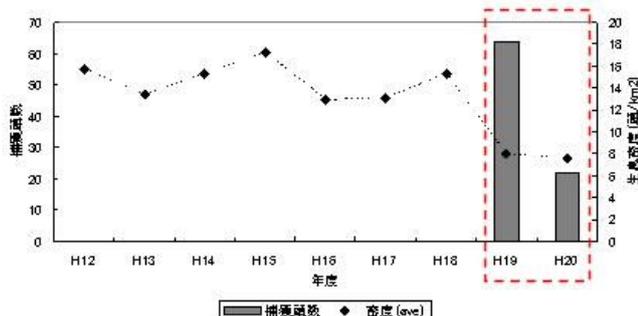
(3) 一体的な取組の効果

- ・ 統合再生東丹沢1の県有林にモデル区域を設定し、森林管理とシカ管理の連携の効果をシカと植生の両面から追跡調査する取組を行っている。
- ・ 19年度から捕獲を開始した結果、シカ密度は大幅に低下し、人工林間伐箇所の植生モニタリングでは、柵内だけでなく、柵外でも植生回復の兆しが見られる。

モデル区域内における管理捕獲実施状況と生息密度

管理ユニット中津川ICの管理捕獲数と密度調査結果

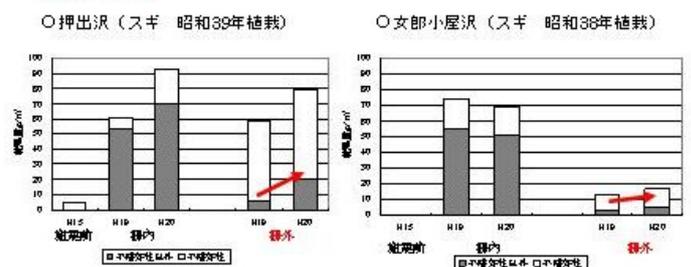
※管理捕獲実施により、密度は10頭/km<sup>2</sup>未満に減少。



※密度はNGOによる調査結果(米発赤データ含む)

森林整備(間伐)後の林床植物現存量の変化

※生息密度が10頭/km<sup>2</sup>未満の状態、植生保護柵外で不嗜好性植物以外の植物の現存量にも増加の傾向が見られている。



#### (4) ワークショップ等における意見

##### [行政グループ]

- ・森林づくりにとってシカ管理は重要であり、適正管理に向けた総合対策が必要。
- ・森林管理とシカ管理の事業効果モニタリングの一体的な実施が必要。
- ・水源施策へのシカ管理の位置付けや森林管理とシカ管理の予算の一体化が必要。

##### [県民グループ]

- ・ゴールとプロセスの明確化に向け、シカと森林のデータの積み重ねが必要。
- ・県民への情報提供を強化と、そのための機会拡大や仕組みが必要。
- ・県民への情報提供や調査などへの水源税の活用に向けた議論が必要。

##### [研究グループ]

- ・森林施業の進展に対応したシカ管理の予防的な対策が必要。
- ・シカ管理と森林管理を同時に進めるための暫定的な目標設定が必要。
- ・森林管理とシカ管理を調和させるため、モニタリングの改善と精度向上が必要。

##### [庁内会議]

- ・水源林整備に対応したシカと植生のモニタリングや捕獲が必要であり、そのための予算上乗せが必要。
- ・個々の森林整備箇所のシカ影響や生息状況について事前事後調査が必要。

#### (5) 事業計画・評価専門部会での委員意見

- ・森林とシカの一体的管理は重要だが、シカ事業の位置付けはあやふやで、予算化も不十分。
- ・従来は、シカは鳥獣行政、森林は森林行政だったが、丹沢では一体で考える必要がある。シカは森林管理の一つのファクターであると言うことが大事。
- ・森林管理とシカ管理を一体的に進めることの必要性を県民に理解してもらうことが大切。

## 2 具体的な議論の場の必要性

#### (1) ワークショップ等における意見

##### [行政グループ]

- ・森林整備とシカ管理の情報共有と連携を図るため、担当者レベルの会議が必要。
- ・シカの適正利用に向けた総合対策のための継続的な研究プロジェクトが必要。
- ・県と国や隣接県との情報交換・共有のための組織的な連携が必要。

##### [県民グループ]

- ・行政と県民が連携してワークショップ等で議論を進めていく必要がある。
- ・森林管理とシカ管理は行政と民間の協力関係が必須であり、行政が中核となつて市民と一緒に進めていく仕組みが必要。
- ・市町村や農政との連携、情報共有が必要。

##### [庁内会議]

- ・森林整備とシカ管理の具体的な事業調整（時期・内容）の仕組みが必要。
- ・保全センターが実施しているニホンジカ保護管理検討委員会などを、より具体的な議論を行う場として充実させていくことが必要。

### 3 人材の育成・確保の必要性

#### (1) ワークショップ等における意見

[行政グループ]

- ・ 行政と事業者の双方において、森林管理、シカ管理を担える人材を育成することが必要。

[県民グループ]

- ・ 森林管理やシカのモニタリングに必要な知識、技術を持つ人を将来的に確保していくことが喫緊の課題。

[庁内会議]

- ・ 地区ごとに担当シフトが組まれている森林整備と比べ、シカ管理の実行体制は弱い。
- ・ 奥山での捕獲や水源林での捕獲、低密度下での捕獲など高い技術・経験を持つ担い手の育成が必要

#### (2) 事業計画・評価専門部会での委員意見

- ・ パークレンジャーが配備され公園管理上効果を上げているが、野生動物管理に関して専門的な職員配置が必要。
- ・ 県においても、野生動物管理を継続的に専門とする人員の採用若しくは職員ローテーションが必要。